



2011

# 合同教育研究全道集会

2011. 11. 6 合研だより No. 3

## いまこそ時代の分岐点！

# 危機を希望へ

## 「競争と管理」を越えて

2011年合同教育研究全道集会ご参加の皆さん、2日間お疲れ様でした。

今年の集会のレポート総数は205本、参加者数はのべ1,346人と参加数、レポートともに昨年を超えました。忙しいなか、この合研に集い、様々な形で2日間を支えていただいたすべての人々に、心から感謝します。

「高田高校、津波からの復活」(伊勢勤子さん、テーマ討論特別報告)、「危機を希望へ」(片岡洋子さん、記念講演)は、参加者に大切な問題を投げかけました。

3月11日の巨大震災と原発人災が日本社会と教育、学校のあり方を根本的に問いかけています。震災や避難生活で「命や友達、学ぶ喜びのかけがえなさ」をあらためてかみしめた子どもたち。その一方で打ち砕かれた「(経済の)成長神話」「安全神話」。巨大震災と原発事故が日本の社会と教育に歴史的な転換をもたらす可能性を示していることが2日間の集会の共通認識になったのではないのでしょうか。

新自由主義的な構造改革の復活をねらう人びとは、なお子どもたちや学校を「管理と競争」の渦に投げ込もうとしています。

しかし、生きることと真剣に向き合った時こそ子どもたちがぐり抜ける「本当の学び」を、すべての学校でどのようにすすめるべきか、今

問われています。学校が命を慈しみ、人間を大切に  
する場であり、安全・  
安心が補償される場である  
ことの大切さを参



加者全体で確認したことと思います。とりわけ、片岡洋子さんの記念講演は、原発人災がもたらした問題に、個々人がどのように向きあうべきなのかを真剣に考えさせられる内容でした。いま一人ひとりが、この問題と真剣に向き合い、やれることからはじめ、やるべきことをやりきることが求められているのではないのでしょうか。

2日間の集会をその糧として下さることを心から訴えます。ご苦労さまでした。

2011年合同教育研究全道集会事務局一同



◎原発  
(20)

◎政府が「何か隠しているな」と思った人はたくさんいたと思います。誰かと原発のことを話すだけでも何かは変わるかもしれない。自分のことばかりでいっぱいになっている毎日ですが「何か」はできるかもしれないと感じました。(30代女性)

◎「情報を批判的に読むこと」「平和学習のあり方」本当に考える機会になりました。(30代男性)

◎3月まで福島県いわき市で教師をしていました。偶然にも4月から北海道に来ることになっていたので私は3月中の福島の様子しかわかりませんが、それでも、3.11以降のことは忘れられません。(中略)今日は本当にありがとうございました。(30代男性)

◎最後の平和教育への「投げかけ」がぐっときました。(40代男性)

◎いろいろ考えさせられました。「当たり前」と思っていることを、もう一度見直してみる、考えてみるが必要だと思いました。(40代男性)

◎「まるで何もわかっていなかった」戦中と同じよう。知らないうちに情報を操作されているのかもしれない。正しいことを子どもたちに伝えなければならないと感じました。(40代男性)

◎「問い直す」ということ改めて考える機会を持ちました。(40代男性)